

様

三陸の海を放射能から守る岩手の会

世話人 永田文夫

全国署名「福島第一原発の重大事故の責任をとり政府は脱原発への転換を速やかに決定すること自然エネルギーに転換すること」ご協力をお願い

貴団体におかれましては日頃より核廃絶と世界平和のためご尽力され、敬意を表します。また日頃私たちの運動にご協力頂き感謝申し上げます。

さて、東電福島第一原発で3月11日発生した大地震・大津波により電源喪失・補助ディーゼル電源不起動により完全に電源が喪失してしまいました。これにより炉心や燃料プールの冷却が止まり、燃料棒が露出し相次ぐ水素爆発により大量の放射能が環境へ放出されました。原子力史上稀に見るINES(国際原子力事象評価尺度)レベル7という重大事故に発展してしまいました。放射能を閉じ込める原発5重の壁は簡単に崩れ空へ海へと放射能が撒き散らされてしまい現在も放出が継続されて終了の目処が未だ立っていません。

これにより農産物、水産物などの放射能汚染が報道され、私達の食卓に汚染された食品が並べられるようになってきました。福島第一原発の近隣に住んでいた人々は強制避難や自主避難が指示され、チェルノブイリ事故周辺避難民がこの地で現実に再現され心痛むものがあります。

この事故は、人類の技術では原子力エネルギーを制御できないということをはっきりと世界中に知らしめました。原発については安全宣伝が政官業・マスコミ上げて行われ、国民の多くがそう思い込まされてきました。そして、私達が利便さの名のもと如何に実体のない空虚なものを追い求めてきたか、原子力エネルギーという名のもと環境や真の幸せを剥奪されてきたのか、それらを私達が容認してきたことなどが今回の事故で浮き彫りになってきました。今までも原発は日常的に放射能をまきちらし、環境を汚染させてきました、廃棄物の問題は未だに解決がついておりません。原発は人々に対立をもたらし、決して幸せにはしてきませんでした。これを機会に、私たちは物事の節度を大切に、生命の源環境を第一に、放射能の心配なしで暮らせる安心・安全で心豊かな生活を取り戻す大転換としなければならないのではないのでしょうか。

以上のことから、私たち全国95の団体はすべての原発を廃炉にし、原子力から撤退することを求める全国署名を実施することにしました。

つきましては貴団体のみなさんに署名につきまして、ご検討ご協力いただきたくお願い申し上げます。

なお、内閣総理大臣への署名提出日については決定しておりませんが、2011年6月末を一次集約、としておりますのでよろしくお願い致します。

もし差し支えなければ「取り扱い団体」とし貴団体名を提出時に連名させて頂きたくお願い申し上げます。

(署名集約先) 三陸の海を放射能から守る岩手の会 電話・fax 019-661-1002
事務局 020-0004 岩手県盛岡市山岸 6-36-8 永田文夫方